

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成23年5月12日 (2011.5.12)

【公開番号】特開2008-268194(P2008-268194A)
 【公開日】平成20年11月6日 (2008.11.6)
 【年通号数】公開・登録公報2008-044
 【出願番号】特願2008-81220(P2008-81220)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 35/00 (2006.01)

G 0 1 N 37/00 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 35/00 D

G 0 1 N 37/00 1 0 1

G 0 1 N 33/53 P

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月24日 (2011.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

選択的結合性物質が結合した担体を収容するカラム状の反応室と前記反応室に連通した試薬・検体リザーバを有するチップを、前記チップ外にある略鉛直方向の回転軸に対して回転させて被検物質を分析する工程を含む分析方法であって、前記回転軸と停止中の前記チップのリザーバ・反応室軸のなす角度 θ が $0^\circ \leq \theta \leq 80^\circ$ であることを特徴とする分析方法。

【請求項 2】

選択的結合性物質が結合した担体を収容するカラム状の反応室と前記反応室に連通した試薬・検体リザーバと、該試薬・検体リザーバと反対側で前記反応室に連通した廃液槽を有するチップを、前記チップ外にある略鉛直方向の回転軸に対して回転させて被検物質を分析する工程を含む分析方法であって、前記回転軸と停止中の前記チップの反応室・廃液槽軸のなす角度 θ' が $0^\circ \leq \theta' \leq 80^\circ$ であることを特徴とする分析方法。

【請求項 3】

前記チップが試薬・検体リザーバと反対側で反応室に連通した廃液槽を有し、前記回転軸と停止中の前記チップの反応室・廃液槽軸のなす角度 θ' が $0^\circ \leq \theta' \leq 80^\circ$ であることを特徴とする請求項 1 に記載の分析方法。

【請求項 4】

前記試薬・検体リザーバの前記反応室に対する容積比が、50 以上であることを特徴とする、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項 5】

前記試薬・検体リザーバの送液方向の投影断面積と、前記反応室の送液方向の投影断面積の比が、50 以上であることを特徴とする、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項 6】

前記試薬・検体リザーバの送液方向に対して平行の最大断面積と、前記反応室の送液方

向に対して平行の最大断面積の比が、2～400であることを特徴とする、請求項1から5のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項7】

前記チップを回転させることにより生じる遠心力を用いて被検物質を含む液体を前記反応室に通過させ、被検物質を前記選択的結合性物質が結合した担体に結合せしめる工程、および

前記チップを回転させることにより生じる遠心力を用いて標識物質を含む溶液を反応室に通過させる工程

を含む請求項1から6のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項8】

前記チップを回転させることにより生じる遠心力を用いて被検物質を含む液体と標識物質を含む液体の混合液を前記反応室に通過させ、被検物質と標識物質の複合体を前記選択的結合性物質が結合した担体に結合せしめる工程を含む請求項1から6のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項9】

前記反応室において、選択的結合性物質が結合した担体に結合した被検物質の検出を光学的手段を用いて行うことを特徴とする請求項1から8のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項10】

前記選択的結合性物質が、抗原または抗体であることを特徴とする請求項1から9のいずれか一項に記載の分析方法。

【請求項11】

前記被検物質が、タンパク質である請求項1から10のいずれか一項に記載の分析方法。